

高知巡検

2012/09/21・22



日程

1 日目

8:30 大学発
 ↓
13:00 頃 黒潮本陣着・昼食(かつおのたたき)
 ↓
 五色ノ浜(横浪メランジュ)
 ↓
 南国市内で夕食
 ↓
 芸西村の家に宿泊

2 日目

 芸西村の家出発（朝食はつけないのでどこかで買います）
 ↓
 室戸ジオパーク [大濠～室戸岬～行当岬]
 ↓
 ひばり宿堂にて昼食（13 時過ぎると思われます）
 ↓
 大歩危「れき質片岩」
 ↓
 道の駅三野「中央構造線」
 ↓
 (時間があれば香川でうどんを食べて)
 ↓
21:00 頃 大学着

・ 五色ノ浜の横浪メランジュ「国の天然記念物」

横浪半島の五色ノ浜の海岸には、四万十帯とよばれる海洋プレートの地層（玄武岩・チャート・遠洋性粘土等）が、プレートが沈み込む際の付加作用で混じり合ったメランジュと呼ばれる地層になって分布しています。

1970年代以降、我が国のような弧状列島は、海洋プレートの移動とそれに伴った地層の付加作用によって成長してきたことが明らかになりました。五色ノ浜の横浪メランジュは、こうした学説が提起・証明された場所として重要です。（土佐市 HP より）

更に白亜紀に付加したメランジュ基質の層と白亜紀に付加したチャートの層の境界がある。

ちなみにメランジュ（フランス語でかき混ぜるという意味）とは、海洋地殻起源の玄武岩（緑色片岩に変質していることが多い）やチャート・石灰岩からなる大小の不規則なブロックを乱雑に含む泥岩層からなる地質体である。メランジュは付加体に特徴的な岩層で、断層によって陸起源の成層した泥岩・砂岩層と繰り返すことがよくある。ただし、メランジュには、蛇紋岩の注入（蛇紋岩メランジュ）や海底地滑りによるもの（堆積性メランジュ）などほかの成因によるものもある。



・ 室戸

大湊：枕
室戸
崖・波食
ホール・タ



岬

状溶岩
岬：波食
台・ポット
フォニ・東

砂岩の中に礫状の泥・スランプ構造・タービダイト・はんれい岩ペグマタイト

行当岬：タービダイト・砂岩脈

- ・ **ポットホール**：川底や海底にあった節理や割れ目などにくぼみができると、小石が入り込み、渦による回転で円形の穴を押し広げて作られる。
- ・ **タフォニ**：岩盤表面に開口した楕円形の穴。岩盤表面から水が蒸発する過程で、水に溶けていた塩類（石膏など）の結晶が成長し、結晶成長圧により岩盤表面が引張破壊を受ける現象（塩類風化）によって形成されると推定されている。砂漠などの乾燥地域や、海水飛沫を受ける海岸域によく見られる微地形であるが、内陸の山地にもしばしば分布している。日本では、砂岩や凝灰岩の急崖に分布が確認されており、オーバーハングした不安定斜面をなすことが多い。オーバーハング部分は岩盤崩壊や落石を起こしやすい。
- ・ **スランプ構造**：海底などに堆積した堆積物がまだ固化していない時期に、海底の斜面などを滑り落ち、不規則な状態で乱堆積したもの。
- ・ **タービダイト**：大陸棚の縁に厚く堆積した陸源堆積物が自重あるいは地震などで崩壊し、大陸斜面を流れ下る海底地すべり（乱泥流）となって深海底へ運ばれ、海底扇状地などを作る堆積物である。下部の粗粒砂岩から上部の泥岩にいたる級化成層がよく発達する一連の特徴的な堆積構造を持つ。海底地すべりは一般に繰り返し発生するので、厚い地層になる。
- ・ **砂岩脈**：水に飽和した流砂が上または下から割れ目の中に圧入したもの。地震のような何らかの騒乱によって流動化によって、砂岩の塊が周囲の岩石中に板状に不整合的に貫入したもの。既存の割れ目に上から砂岩が堆積して垂直な塊ができる場合にも使用される。





